中野島のひろば

2011年1月
市議会報告
日本共産党
市会議員
井口まみ
（発行）
日本共産党市会議員団
川崎市川崎区宮本町1
電話　200-3360
ＦＡＸ　245-4140
http://www.iguchi-mami.jp

中野島駅の橋上化 少しでも早く着手を

１２月市議会で、井口市議質問

橋上化までの間 北口臨時改札の設置を ＪＲに要望する

中野島駅の橋上化は、一九九三年に要望があがり、もう一七年になります。ようやく橋上化することは決まりましたが、稲田堤駅が最初で、そこに5、6年かかるため、それから次の駅に着手していたら、次の駅が完成するのは十年以上先になるということが問題でした。

１２月議会の一般質問をおこなう井口まみ市議

稲田堤駅が完成したら すぐ次の工事に取り掛かる

日本共産党の井口まみ市議は、今年3月の議会で、「設計に3年、工事に3年かかるとのことだが、稲田堤駅が終わってから設計を始めていたのでは、次の駅は十二年も先になる。稲田堤駅の設計が終わったら、次の駅の設計に入るなど、早くする方法があるのではないか」と質問していました。

この十二月議会で再度、「少しでも早く工事着手できるようにするべき」と質問しました。すると、飛弾まちづくり局長は「稲田堤駅の工事が完成する時期には、次の駅の工事に着手できるような対応をしたい」「稲田堤駅の工事着手前から、次の駅の基礎調査に着手できるよう、ＪＲ東日本と協議をしていきたい」と答弁しました。

これにより、数年は早くなる可能性があります。3月議会の井口市議の提案が実りました。

踏切の安全対策は まったなし

橋上化はきまったものの、今すぐではないため、駅前の踏切の危険性は続きます。この対策はまったなしです。井口市議は「北口に臨時改札をつけたらどうか」と提案しました。

北口改札は、以前から川崎市が設置を希望していましたが、ＪＲとの話し合いが付かず、実現していません。井口市議は、二〇〇七年十月、ＪＲ東日本横浜支社に住民の皆さんと交渉に行った際のＪＲの答弁を紹介しました。

「ＪＲ東日本は、『中野島駅については川崎市が橋上化するなら協力する』『北側改札については、橋上駅舎にすることを決定をして、それができるまでの間ならありえるが、恒久的な臨時改札は作らない』と言った。これはまさにいまの条件ではないか。ＪＲが認めるのだから、橋上駅舎ができるまでの間、北側に臨時改札を作るべき」と質問しました。

飛弾まちづくり局長はその質問に答えて「ＪＲ東日本に対し、駅利用者の安全性の確保と、利便性向上のため、橋上駅舎が整備されるまでの間は、北側改札口の設置をおこなうよう、要望していく」と明確に答弁しました。

２００７年１０月、ＪＲ東日本横浜支社と交渉。右端が井口まみ市議。左端は、はたの君枝・元参院議員。

まちづくり局長が答弁

あきらめないで!! ミニバスを導入するまで

井口まみ

ミニバスを導入してほしいという切実な声をたくさんうかがい、胸を痛めています。中野島は道路が狭く、どこに行くにもバスがなくて、ホントに難儀をしています。

多摩川住宅にはバスが入るようになりましたが、中途半端なところでおろされて、区役所にも多摩病院にも結局けっこう歩かなければなりません。

世の中を見回すと、お隣の稲城とか狛江とか、みんなミニバスが走っていて、ないのは川崎くらいです。小さなバスですからそんなにもうけがありません。どこも自治体がしっかり補助金を出しているのですが、この運営費に対する補助金を、川崎市はどうしても出さないので、運営をしたくてもできないのです。麻生区では百合丘・高石地区でいよいよ乗り合いタクシーが実現しますが、ここでは運営費の赤字の補填に住民などから賛助金を集めています。よその町では考えられないことです。

「やっぱりだめかあ」と思いがちですが、中野島駅の橋上化だって、最初はダメかと思っていたのです。共産党市議団はあきらめずに、議会で繰り返し運営費補助を求めています。市民の声がある限りそれを背負って求め続けます。

多摩スポーツセンター
いよいよ3月26日
オープン！

障害者手帳提示で料金無料
高齢者割引も「検討する」

１２月市議会で、井口市議質問

国保の「無料プール券」の利用も検討

利用料金について、井口まみ市議は「市内ではじめてのプール併設のスポーツセンターであり、これまで利用しなかった高齢者や障がい者も気軽に利用できるよう、利用料金にも工夫をするべき」として、

・障がい者は障害者手帳を受付で提示すれば無料になるが、広報されていない。チラシやホームページに明示を。

・高齢者割引を行い、高齢者の利用促進策を。

と求めました。

門ノ沢多摩区長は「障がい者の利用料金などは周知に努める」と述べるとともに、「高齢者の優遇制度については、他施設や他都市の状況を参考に検討する」とこたえました。

また、井口市議は「川崎市国民健康保険の加入者（高校生以上七四才まで）は『温水プール無料利用券』で市内すべての温水プールが利用できる。これを多摩スポーツセンターにも適用すべき」と質問。菊池健康福祉局長は「検討する」と前向きな答弁を行いました。

二〇一〇年十二月議会での日本共産党の質問等は、別紙の「明るい川崎」でご報告しています。ご意見、ご感想をお寄せ下さい。

多摩スポーツセンターの送迎バス 南武線と小田急線の駅から2路線

区内の強い要望になっていたのが、交通アクセスです。市は「事業者が利用促進のための送迎バスを提案している」といっていましたが、検討状況を質問すると、多摩区長が、「新たな交通手段として、マイクロバスの運行計画をしており、ＪＲ南武線と小田急小田原線のそれぞれ１つの駅を経由する、２つのコース案で協議を進めている」と答弁しましたが、まだどこの駅から、どこを経由して送迎するかは明らかにされませんでした。

井口市議は、「たくさんの人が利用したいと待っている。オープンしたらすぐ行かれるように、コースを急いで決定し、早く周知をしてほしい」と要望するとともに、「中野島は交通の便が悪いので、ぜひ中野島をコースに入れてほしい」と要望しました。

この２０年を振り返れば「これは市民が作ったスポーツセンター」

井口市議は質問の中で、このスポーツセンター実現までの道のりを振り返り、次のように要望しました。

「多摩区にスポーツセンターを作ると最初に表明されたのが、一九九〇年でした。それから、なんと二〇年がたちました。

当初からプールをつけてほしいと求め続け、決まりかけた時に市長の行革でＤランクにされてプールは白紙。それでも市民はあきらめずに請願を出し、プール付きのスポーツセンターを求め続けてきました。

建設が決まってからも、建設委員会が丁寧に開かれ、たくさんの人たちが意見を寄せてきました。

このスポーツセンターは名実ともに市民が作ったセンターだと思います。この経過はとても大切です。いよいよ運営が始まるわけですが、これからも、しっかり市民の声を聞いて、市民とともに運営していただきたいと思います。」

１２月議会の一般質問をおこなう井口まみ市議

日本共産党 採択を求め、本会議で意見表明

「命の水を守るために、生田浄水場の廃止の再検討を求める」請願

十二月十五日、川崎市議会本会議で、「命の水を守るために、生田浄水場の廃止の再検討を求める」請願の採択がありました。これは、十月二十七日の市議会環境委員会での審議を経て、最終的に本会議で賛否を決するものです。委員会では「不採択」という結論でしたが、再度本会議で採択します。

採択に先立ち、日本共産党のかつまたみつえ市議（麻生区）が「生田浄水場は廃止するべきでない」と代表討論を行い、採択に賛成することを表明しました。

賛成の代表討論をおこなう日本共産党のかつまたみつえ議員

水道料金にも跳ね返る全市民的な問題

かつまた議員は討論の中で、市民の飲み水の六七％もの水を五六㎞も離れた小田原から水を運んでくることは、大規模災害時には無理であることを明らかにするとともに、自治体が自己水源を廃止し、他の事業者の水に依存することは、料金の決定も独自におこなうことがむずかしくなり、市民全体に影響を及ぼすことを明らかにしました。

神奈川県内広域水道企業団は、水需要を過大に見積もり、莫大な設備投資をしています。その借金がいま各自治体に重くのしかかっているとともに、今後の維持・補修や施設の更新にさらに巨額の費用がかかることがすでに懸念されています。企業団の水に六七％も依存すると、その費用をそのまま料金に転嫁され、市民の負担になる懸念があります。そうした点から、企業団の経営改善を行い、市民負担に転嫁せずに経営を維持しながら、自己水源である多摩区の井戸水とその処理をおこなう生田浄水場は残すべきである、と強く主張しました。

民主、自民、公明、ネット、無所属議員が反対

採択では、日本共産党は全員が起立し賛成しましたが、ほかのすべての議員が反対したため、本会議でも「不採択」になりました。

本会議場での、請願署名の採択の瞬間。日本共産党のみが賛成で起立。ほかの議員はすべて着席。